株主・投資家等との対話 ①

当社では株主との対話(面談)は、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資することであると認識しており、対話(面談)の申込に対しては可能な限り対応しています。

株主との建設的な対話(面談)を促進するための体制として、担当取締役及びIR担当役員が関連部署を統括し、部署間の連携を図るとともに、IR・広報部を担当部署として積極的なIR活動に努めています。

また、対話(面談)を促進するための取組みとしては、株主総会、半期ごとの決算説明会、個別面談などの実施により、当社と株主の双方向のコミュニケーションが行われる機会の充実を図っています。

これらIR活動によって収集された情報については、必要に応じてIR担当役員が経営陣幹部にフィードバックしています。

なお、株主との対話(面談)においては、公平かつ適時・適切な情報開示とともに、インサイダー情報の漏洩防止に努めています。

対話の実施状況(2023年4月～2024年3月)

IR活動		参加人数	概 要	
決算説明会	本決算	36名	日程	2023年5月12日
			対象者	アナリスト・機関投資家(一部株主)
			対応者	社長はじめ経理、経営企画部門
			形式	オンライン(Zoomウェビナー)
	中間期	36名	日程	2023年11月8日
			対象者	アナリスト・機関投資家(一部株主)
			対応者	社長はじめ経理、経営企画部門
			形式	オンライン(Zoomウェビナー)
個別ミーティング		延べ201名 (国内:123名 海外: 78名)	期間	2023年4月～2024年3月(開催数:106回)
			対象者	アナリスト・機関投資家(一部株主)
			対応者	主にIR担当役員、IR部門、経理部門
			形式	主にオンライン

株主・投資家等との対話 ②

主な対話内容（2023年4月～2024年3月）

■ 事業環境

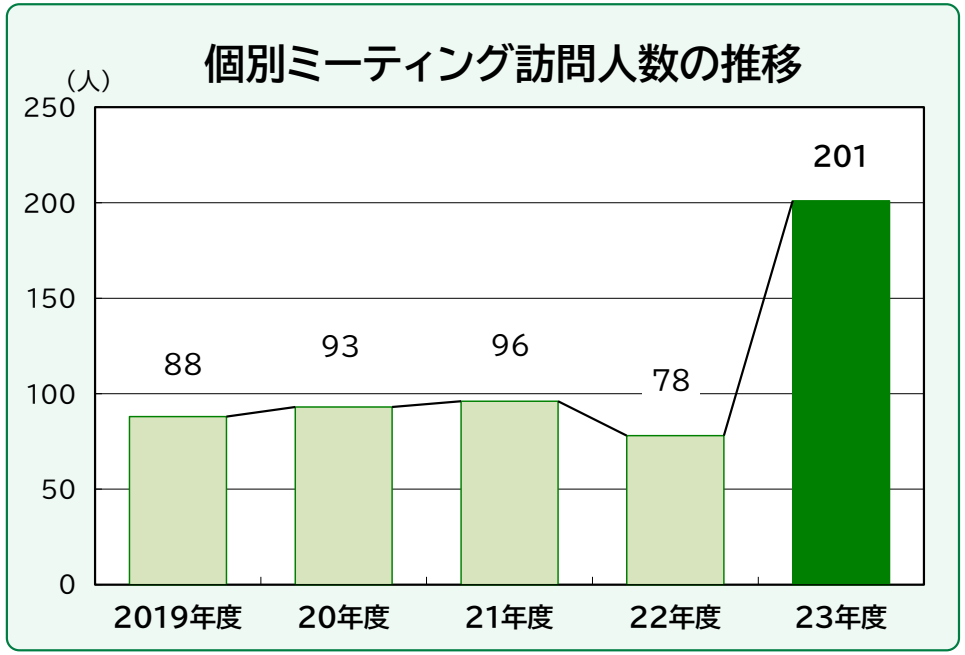
- ✓ 一般電気工事の受注環境（建設需要の動向、施工キャパシティの状況など）
- ✓ 一般電気工事の受注時採算（資材価格・労務費などのコスト上昇の影響、競争環境など）
- ✓ 配電工事のレベニューキャップ制度開始による影響
- ✓ 大阪・関西万博関連工事の取り組み状況
- ✓ 2024年時間外労働の上限規制への対応状況

■ 中期経営計画

- ✓ 売上高7,000億円規模の経営（2026年度）にむけた取り組みとその進捗状況

■ 資本政策

- ✓ 成長投資の考え方
- ✓ 自己資本の効率化への取り組み（株主還元強化、政策保有株式の縮減など）

■ その他

ESG関連　など